編集後記

第26巻2号をお届けします。本号の発行も大変遅れて申し訳ありませんでした。

さて、巻頭言には中国清華大学の林金明先生にご寄稿いただきました。同氏は大学時代を現首都大学東京（旧東京都立大学）で過ごされ、保母先生、山田先生の指導のもとで化学発光を利用するFIA法などのご研究をされた方で、2000年には本懇談会の進歩賞を、また、2008年には学術賞を受賞されています。日本側からの巻頭言としては、静岡福祉大学の石井幹太先生にご寄稿をいただきました。福祉という異なった見地からFIA法を見ていただき、FIA化学からFIA科学へという変革が求められており、これからのFIAの研究の方向性を示していただきました。

指標欄には、本研究懇談会の編集委員にお加わりいただきました茨城大学の五十嵐淑郎先生より「新奇な化学反応が変えるフロー分析の世界」というタイトルでご寄稿をいただきました。ポルフィリンを用いるFIA法から始められた方法が、発光するまでの時間を計測するという新しいFIA法に展開され、さらに1分子を計測するという極限計測の夢を語っていただいています。

総説は今回お休みですが、次号には数名の方にご寄稿をお願いしておりますので、お楽しみにしてください。今回は、千葉大学を昨年ご退職になられました小熊幸一先生にパーソナルレビューのご寄稿をお願いしました。30年以上にわたるFIA研究の思い出をまとめていただきました。黒田先生とのケイ酸塩の分析から、イオン交換樹脂やキレート樹脂によるカラム濃縮法を利用した数々のFIAへの展開には、私にも当時の思い出がよみがえってまいりました。

研究論文の欄には、今回は国外から1報と国内から3報の合計4報の論文が投稿されました。次号にも会員の皆様からのたくさんのご投稿をお待ちしております。

トピックス欄には今回も私の研究室の学生さんに書いてもらいました。雑誌会で紹介してくれたものをまとめたものです。直接FIA研究にかかわりのない研究のほうが、かえって新しいFIA法の展開には大いに役に立つのではないかと思います。会員の皆様の周辺でも声をかけていただき、たくさん投稿していただければ幸いです。

報告の欄には本年9月14日～18日にスペインのマヨルカ島で開催されましたFlow Analysis XIに参加されました横浜国大の庄司　貴さんに報告記をご寄稿いただきました。学生として、また初めての国際会議とあって緊張した中にも楽しい経験であったのではないかと思います。また、主催者のCerda先生にも報告記をご寄稿いただきました。次回のFlow Analysis XIIはギリシアで開催予定とのことです。楽しみです。

国内の学会情報は、徳島大学の田中秀治先生にお願いしました。FIA Bibliographyは岡山大学の高柳俊夫先生から神奈川工科大学の飯田泰広先生にバトンタッチです。飯田先生には最初ということもあって、少しでまどったとのことでしたが、多くの論文を集めていただきました。

お知らせの欄にもありますように、今年の4月25日から30日にタイのリゾート地で有名なパタヤで第16回International Conference on Flow Injection Analysisが開催されます。オーガナイザーのお一人のNacapricha さんから多くの方の参加を依頼されています。奮ってご参加いただければ幸いです。

今後ともこの会誌が本会員の皆様方の情報交換の場になることを希望しております。ご寄稿をお待ちしております。

JFIA編集委員長

今任稔彦